# 近代的な知の分類と東南アジアのムスリム社会
## 「千一問」質問群にみるムスリムの社会生活と知的関心の広がり

光成 歩

## 0. はじめに

本稿は、『カラム』に連載されていたコラム「千一問」を図書館分類表にもとづいて分類するとともに、分類にあたっての課題を整理したものである。分類の目的は、『カラム』読者層の知的関心の広がりを一覧のもとにまとめ、「千一問」の特徴を考えることである。分類の過程で得た知見は「千一問」分析の枠組みを検討する上での足がかりとなる。また、この作業により、1950〜1960年代の島嶼部東南アジアにおいてムスリム社会が直面した諸問題について、豊富な情報を含む「千一問」の資料的価値を確認することができるだろう。

## 1.「千一問」と知の枠組み

「千一問」は、『カラム』の読者から寄せられる質問にイスラム知識人アブー・ アル＝モフタール (Abu Al-Mokhtar)[1] が答える一問一答形式のコラムである。コラムは、1950年の『カラム』創刊号から1969年にエドルスの死去により最終号となった第228号まで続いた人気コーナーで、20年間を通じて701件の問答が掲載された[2]。

「千一問」では、マラヤとシンガポールを中心とする島嶼部東南アジアのムスリムが、同時代の社会生活で直面した諸問題につき、主としてイスラムの観点から問答がなされている。「主として」というのは、話題となったトピックが多岐におよび、かつ教義や法学に特に言及しないスタイルが質問にも回答にも時折見受けられるためである[3]。取り上げられた話題は、個人や家族をめぐる悩みの相談、儀礼の方法、話題の宗教書、ムスリム社会の改革、民族・宗教間関係、選挙や政党の活動、国際社会の動向など多領域に広がっている[4]。こうした話題の多様性を反映してか、質問の形式もまた多様であり、個々人が直面する問題についての具体的な助言やイスラム法学上の見解を求めるものから、純粋に知識や解説を求めるもの、関心を集めている話題や論争への論及を求めるものなど様々である。また、回答のスタイルにおいても、一つの質問に対し一つの回答がなされるパターンだけでなく、一つの質問への回答が複数のテーマに分岐して展開されるものが一定数みられる。この点で、「千一問」は読者の要望に応えて回答がなされるいわゆるファトワのような性質と、ムスリム社会の公の関心事について一般ムスリムと知識人との意見が交わされるフォーラムの特性とを兼ね備えていたと言ってよい。

ファトワは、一般のムスリムの生活のなかでのイスラム実践や一般のムスリムと知識人との交流や交渉の過程を明らかにする上で重要な資料であると指摘されている［小杉 2002；大川 2007；峯崎 2009］。とりわけ、『カラム』が発行されていた1950〜1960年代は、資料上の制約が大きく、東南アジアのムスリム社会の動向が十分に明らかにされていない時期である。そうしたなかで、20年にわたり、ムスリムの生活者としての視点からの問いを取り上げ続けた「千一問」は高い資料的価値を備えている。

本稿は、大部に及ぶ「千一問」がどのような射程をもつ資料であるかを明らかにするために、「千一問」の質問群を既存の知の分類方法に従って分類し、ムスリム読者の関心の広がりを把握しようとするものであ

1）アブー・アル＝モフタールはペンネームであることが「千一問」内で明かされている［*Qalam* 1953.5: 40］。該当の問答については後述。

2）全228号のうち、合計36号で「千一問」の掲載がない。また、1964年5月号（第166号）は確認できていないため、これを除外した数値となる。701件は問答の意味による区切りを行なった場合の数字であり、質問者ごとに区切ると数字は異なる。これについては、本書の山本論文を参照されたい。質問内容ごとの区切りについては後述。

3）具体的な例は後述する。

4）『カラム』第1号から第25号まで掲載された「千一問」の問答250件について、テーマごとの内容分析を行ったものとして［金子 2016；光成 2016；山本 2016］が、質問のパターンやテーマの分析を行ったものとして［坪井 2016］がある。

る。すでに述べたとおり、質問の範囲や意図を超えて回答が展開される場合もあり、この場合は質問のテーマ分類と回答のテーマ分類とのずれを処理する必要が生じる。よって、さしあたりは質問に限定して分類を行った。このため、分類対象となったのは、701件の問答うち、1つの質問に対する回答が複数の意味をもつとみなした18件を除いた683件の質問である[5)]。なお、問答パターンそのものの分析も、「千一問」の特性を明らかにする上で有用と考えられる[6)]。

分類方法は、マレーシアのイスラム理解研究所の付属図書館や、同じくマレーシアの大学図書館が採用している分類方法を援用する方針で検討したところ、いずれも米国議会図書館分類表（Library of Congress Classification; LCC）を採用していたため、これを用いることとした。具体的には、米国議会図書館のウェブサイトに掲載されているLCC分類表を参照し、大項目はLCCに従い、中項目・小項目もテーマに沿う分類がある限りはLCCの項目を採用した。しかし、分類が下位に及ぶにつれ、質問数が一定数を形成していながら適当なテーマが見つからないものがあり、それに関しては筆者が仮に項目名をつけた。

## 2. 図書館分類表を用いた「千一問」の分類

LCCに従って「千一問」の質問を分類した結果の一覧が表1である。大項目の各項目の末尾の丸括弧（　）内のアルファベットは、該当する項目の分類記号である。中項目以下で丸括弧（　）をあてたのは、筆者がつけた仮の項目名である。

以下、大項目ごとに分類の概要と内訳を簡単に説明する。

### 2.1. 哲学・心理学・宗教

大項目「哲学・心理学・宗教」(B) の下位の中項目「宗教」(BP) の、さらに下位に小項目「イスラム教」(BP1-253) がある[7)]。ここに含めたのは、イスラムの歴史や伝記または神学や教義に関する知識を尋ねるもの、コーランの扱いやハディースについて尋ねるもの、ムスリムの義務的行為とされる五行（信仰告白、礼拝、断食、ザカート、巡礼）の実践やこれに密接に関わる清めに関して尋ねるものなどである。五行に質問が集中しており、このままでは内容がつかみづらいため、表2で項目の内訳をさらに細かく示した。

礼拝に関する質問、ザカートに関して質問が集中していることが明らかである。このほか、「イスラム社会学」や「イスラムの信仰生活」「イスラムと他宗教との関係」といった項目も立てられており、後述する習俗的

**表1　LCCにもとづく「千一問」の質問分類**

| 大項目 | 中項目 | 件数（件） | 合計（件） |
|---|---|---|---|
| 哲学・心理学・宗教（B）>イスラム教 | 一般 | 14 | 210 |
| | 歴史・伝記 | 19 | |
| | コーラン | 19 | |
| | ハディース・伝統・スンナ | 5 | |
| | 教義・神学 | 14 | |
| | 棄教 | 5 | |
| | イスラム実践 | 20 | |
| | 五行 | 110 | |
| | （その他） | 4 | |
| 地理・人類学・レクリエーション（G） | 民間信仰・迷信 | 37 | 108 |
| | 作法・慣習 | 51 | |
| | 娯楽・余暇 | 12 | |
| | 外国 | 8 | |
| 社会科学（H） | 商業 | 23 | 217 |
| | 金融 | 17 | |
| | 家族・結婚・女性 | 128 | |
| | 共同体・階級・民族 | 46 | |
| | 社会主義・共産主義など | 3 | |
| 政治学（J） | イスラム国家 | 6 | 48 |
| | （マラヤ政治） | 25 | |
| | （インドネシア政治） | 12 | |
| | 国際政治 | 5 | |
| 法律（K） | （マラヤの宗教行政） | 11 | 15 |
| | （西洋法とイスラム法） | 4 | |
| 教育（L） | （宗教教育ほか） | 12 | 12 |
| 語学・文学（P） | （マスメディア） | 10 | 29 |
| | （宗教書） | 11 | |
| | （映画・芝居） | 8 | |
| 科学（Q） | （自然） | 10 | 10 |
| 医学（R） | （医療・衛生ほか） | 9 | 9 |
| 技術（T） | （道具ほか） | 4 | 4 |
| （その他） | （不正） | 7 | 21 |
| | （友愛・人間関係） | 6 | |
| | （その他） | 8 | |
| | 合計 | 683 | 683 |

5）意味の上での区切りでは、1955年7月号（第60号）と8月号（第61号）にかけて回答された産児制限についての問答は2件、1959年4月号（第105号）と5月号（第106号）にかけて回答されたインドネシアでの反乱に関する問答は6件、1960年11月号（第124号）で回答されたアフマディヤに関する問答は2件、1961年3月号（第128号）から7月号（第132号）にかけて回答されたザカートに関する問答は7件、1961年12月号（第137号）から1962年4月号（第141号）にかけて回答された宗教書に関する問答は5件、1969年8月号（第226号）から9月号（第227号）にかけて回答された故人の冥福を祈るクンドゥリに関する問答は2件と数えられるが、質問としてはそれぞれを1件とカウントする。

6）情報学の手法を用いて、質問の型の抽出方法を検討したものに［亀田 2016］があるが、検討は初段階にとどまっている。

7）従って、表1の「哲学・心理学・宗教」(B) の中項目に表示されているのは、正確には小項目「イスラム教」に含まれる項目である。

な儀礼や祈願、飲食に関する規範、異教徒との関係を宗教に分類することも可能だが、ここでは含めなかった。地理・人類学や社会科学等とのあいだで振り分けに迷うものについては、ファトワ集成等でしばしば採用されるイバーダートとムアーマラートの別を参照[8]し、「イスラム教」内に含みうるものでも、五行の実践やそれに深く関わる清めの手順などに関するもの以外、社会生活に関わる質問は含めない方針とした。

### 2.2. 地理・人類学・レクリエーション

地理・人類学・レクリエーションの大項目・中項目はさらに次のような小項目に分けた。項目番号と項目名が同じでも、内容の違いに意味があると考えられるものはさらに切り分けた[9]。

中項目「民俗」の多くを占める「民間信仰・迷信」は、病気治癒や安全などの願掛け、護符やお守り、占いなどに関わるもので、36件あった。回答を先取りするが、イスラム教義の観点からは逸脱とみなされるものと、スンナ、すなわち認められるよき伝統とみなされるものとに分けて示した。

中項目「作法・慣習」は、複数の重要なグループに分けられる。「服装」に分類したのは、とくにネクタイやズボンなどの西洋服を着ることについての質問や、アラブの伝統服であるターバンやジュバの着用の利益についての質問などである。

「結婚・子供・飲食・弔いを含む私的生活に関する慣習」は、これ以上の下位の分類表が参照できなかったため、独自に「結婚式」「弔い」「食生活」に分けた。質問が集中しているのが「弔い」についてであり、死者のためのクンドゥリ、死者のための礼拝や断食の埋め合わせ、弔いのズィクルについてなど、イスラム教義の上では逸脱とみなされる慣習についての質問が繰り返されている（12件）。また、異教徒の冥福を祈ること、マレー人が育てた華人の養子の埋葬など、異教徒との関係や改宗が一定の焦点となっている（4件）点にも留意したい。

「食生活」では、イスラム教において規範が曖昧な、魚、オオトカゲ、蛇、アリの死骸が入った食品について尋ねるもの、また糯米を発酵させた菓子タパイについての質問もここに含めた。飲酒や豚肉など、明確に禁止されているものについては、商品経済・市場との関わりにおいて禁忌に関わってしまうことについての不安が一定数の質問に見られた。分類に迷う一群の一つではあるが、これについては、「食生活」には含めず、商品経済との関わりでの悩みと分類して大項目「社会科学」のなかの中項目「商業」に含めた。

「娯楽・余暇」には、スポーツ、ダンス、海水浴や沐浴、ピクニック、狩猟といったレジャーに関する質問を分類した。こうしたことの良し悪しは、それ自体というよりもその場における男女の接触や親交が問題とされることから、分類としては社会科学の下位の「男女交際」に含める、あるいは踊り[10]や音楽についての問

**表2　イスラム教内訳**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目（記号と番号はLCC） | 件数 |
|---|---|---|
| BP宗教（>BP1-253 イスラム教） | BP1-68一般 | 9 |
| | BP1-68一般（>来世） | 5 |
| | BP50-68歴史 | 8 |
| | BP70-80伝記 | 11 |
| | BP100-134コーラン | 19 |
| | BP135-136.9ハディース・伝統・スンナ | 5 |
| | BP165.5教義 | 10 |
| | BP166-166.94神学 | 4 |
| | BP168棄教 | 5 |
| | BP174-190イスラム実践（>清め） | 14 |
| | BP174-190イスラム実践（>喜捨） | 4 |
| | BP174-190イスラム実践（>その他） | 2 |
| | BP176-181五行（>ザカート） | 29 |
| | BP176-181五行（>巡礼） | 8 |
| | BP176-181五行（>断食） | 8 |
| | BP176-181五行（>礼拝） | 65 |
| | BP184-184.9宗教的儀式・儀礼 | 2 |
| | BP188.45-189.65スーフィズム | 1 |
| | BP191-253分派 | 1 |
| | 小計 | 210 |

**表3　地理・人類学・レクリエーション内訳**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目（記号と番号はLCC） | 件数 |
|---|---|---|
| GR民俗 | GR81民間信仰・迷信（>BP167.5異端・逸脱） | 12 |
| | GR81民間信仰・迷信（>BP188-190イスラムの信仰生活） | 24 |
| | （その他） | 1 |
| GT作法・慣習 | GT500-2370服装 | 9 |
| | GT2400-3390.5結婚・子供・飲食・弔いを含む私的生活に関する慣習（>結婚式） | 1 |
| | GT2400-3390.5結婚・子供・飲食・弔いを含む私的生活に関する慣習（>弔い） | 30 |
| | GT2400-3390.5結婚・子供・飲食・弔いを含む私的生活に関する慣習（>食生活） | 11 |
| GV娯楽・余暇 | 娯楽・余暇 | 12 |
| （その他） | （外国） | 8 |
| | 小計 | 108 |

8）ファトワ集成の項目立てについては［峯崎 2009］を参照した。

9）例えばGT2400-3390.5など、ウェブサイト掲載の分類表にそれ以上細かな番号の振り分けが記載されていない場合があり、この場合は筆者が仮に独自の分類を行った。

10）踊りに関しては、男女で踊るマレー人の大衆ダンス、モダン・ジョゲットについての質問が複数含まれており、芸能に分類するのが適当とも考えられる。

いを芸能の一分野として語学・文学の下位に含める可能性もあり、引き続いての検討事項である。

### 2.3. 社会科学

全体のうち、大項目「社会科学」に分類された質問が最も多く、217件ある。中項目「商業」には、前述した通り、商品経済とのかかわりのなかで自らの口にするものや手にするものに不安が示される質問を含めた。「消費・生業」は、文字通り消費生活や生業を通して禁忌に触れる悩みであることをイメージしやすいよう筆者が付した項目名で、これをさらに三つのカテゴリに分けた。第一は、異教徒、多くの場合は華人との関わりで、異教徒が経営する缶詰工場の缶詰を食すこと、異教徒の洗濯業者の洗濯した衣服を着ること、異教徒の上司のもとで働くこと、異教徒と同居することや、イスラムでは禁じられている豚肉や酒の売買で得たお金を受け取ることなど、異教徒を媒介として禁忌に触れてしまうことへの不安についての質問群である。第二は、酒そのものの禁止や酩酊作用をもつと噂されるコカコーラ等の飲料について知識を求めるものである。第三は、第一に近い内容で、輸入した食材や歯ブラシなど、商品経済の中で手にするもの、または生業としてその商品経済に関わることへの不安についての質問群で、異教徒を媒介とすることが焦点となっていないものを第一のグループと別にした。

金融の項目では、宝くじや賭博、利子を生む金融商品の合法性についてそれぞれ一定数の質問があり、これを二つに分けた。

中項目「家族・結婚・女性」は、分類表に記載された下位項目が十分に詳細で、既存の項目に質問群を概ね分類できた。女性をめぐる近代的な学知の関心と、「千一問」に表れる近代以降のムスリム社会の知的関心とが近似していることの表れとも言えよう。「家族・結婚・家庭」は、結婚そのものとそれ以外の夫婦関係や家庭生活に関するものとを分けたが、くくり出した「結婚」にはなお35件が集中している。このなかでは、異宗教婚や改宗と結婚に関する質問が10件、サイドやシャリファと呼ばれるアラブ人富裕層の結婚相手についての質問[11]が5件と、民族・宗教・社会階層に関わる質問が半数近くに登った。子どもに関する質問は、親と子の関わりを重視するものを「親・親子・父親と母親」に、子どもだけが焦点となっているものを「子供・子育て・子供の生活・遊び・社会化・社会的権利」に分けた。ただし、項目が細分化しすぎることで全体像が見えづらくなる可能性も考えられる。また、子どもへの言及で「姦通」に振り分けた質問が6件あり、いずれも姦通から生まれた子どもが親の罪を負うかをどうかに関心が置かれたものであった。さらに、マレー人社会には華人の女児を引き取って養子とする習慣があり、養子がムスリムとみなされるかどうかに関わる質問が一定数あったが、養子については特別項目を立てず、「結婚」「埋葬」「姦通」などのトピックに散らばっている。

「男女関係・求婚・交際」には、男女の友情、文通、握手など、婚前の男女が知り合うことが許容されるのかの質問を分類した。学校や職場など、社会進出を果たした女性との公共の場での不可避の接触についての質問も含めた。これに関しては、娯楽・余暇の項目でも、沐浴やピクニック、祝祭における男女の接触が扱われている。社会生活を送る上で女性と接触が避けられない男性からの質問を「男女関係・求婚・交際」に含めた一方、「女性・フェミニズム」には、女性を主体とする

**表4　社会科学内訳**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目（記号と番号はLCC） | 件数 |
|---|---|---|
| HF商業 | （消費・生業）>異教徒との関係 | 10 |
| | （消費・生業）>酒との関わり | 5 |
| | （消費・生業）その他 | 8 |
| HG金融 | （宝くじ・賭博） | 9 |
| | （利子・保険） | 8 |
| HQ家族・結婚・女性 | HQ31-64性規範と性倫理 | 4 |
| | HQ447自慰 | 1 |
| | HQ77-77.2異性装 | 1 |
| | HQ503-1064家族・結婚・家庭 | 15 |
| | HQ503-1064家族・結婚・家庭（>結婚） | 35 |
| | HQ755.7-759.92親・親子・父親と母親 | 7 |
| | HQ760-767.7家族の大きさ | 9 |
| | HQ767.8-792.2子供・子育て・子供の生活・遊び・社会化・社会的権利 | 2 |
| | HQ801-801.83男女関係・求婚・交際 | 13 |
| | HQ806姦通 | 11 |
| | HQ811-960.7離婚 | 15 |
| | HQ1101-2030.7女性・フェミニズム | 15 |
| HT共同体・階級・民族 | （異教徒・改宗）/HT1501-1595民族または社会集団としての民族・民族関係/異教徒との関係 | 14 |
| | （地元のムスリム団体・知識人の対立）/HS1525-1560宗教団体/異端・逸脱 | 20 |
| | （地元のムスリム社会の改革） | 12 |
| HX社会主義・共産主義・無政府主義 | 共産主義 | 3 |
| | 小計 | 217 |

11）婚姻相手に対等性を求める学説が、アラブ人女性（シャリファ）とマレー人との結婚で問題にされることがしばしばあり、改革派知識人の批判を浴びていた。

関心事、すなわち、公の場での女性の振る舞いに関する質問を分類した。特定の職業の良し悪し、髪型、乗り物、服装、そのなかでのアウラの位置づけなどを問うものがこれにあたる。

中項目「共同体・階級・民族」の下には、あてはまる項目がないわけではなかったが、項目名から具体的な課題をイメージしやすいことを優先して三つの仮カテゴリを設けた。「異教徒・改宗」「地元のムスリム団体・知識人の対立」「地元のムスリム社会の改革」である。「異教徒・改宗」に関するものは、別の大項目に含めたものもあるが、それらとは別に異教徒とのサラームや異教徒との宗教問答、さらに改宗者への対処などで14件にのぼった。異教徒・改宗に関わる質問をすべて合わせると大きなカテゴリになると思われ、その項目をどのレベルに設定するかなどの検討を要する。

「地元のムスリム団体・知識人の対立」は、カウム・ムダとカウム・トゥア[12]について（6件）、これに関連してイジュティハードを認めるかタクリードする（墨守）べきかについて（4件）、また、ウラマー間の対立やマレー人の二つの政党の対立についての質問などが含まれる。少数であるが、ムスリム社会では異端視されるアフマディアや、インドネシアの改革派ムスリム団体ムハマディアに関する問いも含んでいる。さらに、似た言い回しにはなるが、別項目として「地元のムスリム社会の改革」を立て、ここにマレー人の商業意欲や、アラブ人ムスリムや王族などムスリム社会内の階級、あるいはマレー人社会の一部で実践されている母系制の慣習法の位置づけについての問いを分類した。

### 2.4. 政治学／法律／教育

大項目「政治学」には48件の質問を分類した。中項目「イスラム国家」には、インドネシア出身のウラマーが著した宗教書の解説など、理念的な統治について問うものを含めた。「インドネシア政治」「マラヤ政治」には、インドネシアやマラヤの政情についての具体的な言及や、そのなかで指導者をどう選ぶか、選挙にどう臨むかといった質問をそれぞれ分類した。「国際政治」には、国連の代表者の構成やその東西対立に対する動向を問うものを分類した。

大項目「法律」の下位に、小項目として「マラヤの宗教行政」「西洋法とイスラム法」を設けた。マレー諸州における宗教行政制度による五行の実践の制度化について是非を尋ねるものや、シンガポールにおける同様の制度の設立について尋ねるものを「マラヤの宗教行政」に、近代的な裁判制度のなかでムスリムがどう振る舞うべきかを問う質問群を「西洋法とイスラム法」に分類した。

大項目「教育」に分類した質問12件は、数が多くないので、下位分類は設けていない。宗教教育に言及するものが最も多く、とくに宗教教育にどうムスリムを引きつけ、また宗教教育を社会にどう位置づけるかといったものが目立った。この他に、英語教育への関心から、英語学校で学ぶことでキリスト教の影響を受けてしまう恐れや、英語とアラビア語のどちらを学ぶべきかといった質問も含まれる。

### 2.5. 語学・文学

大項目「語学・文学」は、中項目の細分化にはなっていないが、内容のイメージしやすさを考慮して小項目を設けた。雑誌やメディアで採用する言語や綴り文字、ラジオ放送についての質問を「マスメディア」に、宗教局が発行禁止としたりムスリム社会で話題になっている宗教書についての質問を「宗教書」に、映画や芝居といったメディアについての質問を「映画・芝居」に分類した。

**表5　政治学内訳**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目 | 件数 |
|---|---|---|
| JC政治理論・国家・国家論 | JC49イスラム国家 | 6 |
| | （インドネシア政治） | 12 |
| | （マラヤ政治） | 25 |
| JZ国際関係 | （国際政治） | 5 |
| | 小計 | 48 |

**表6　法律内訳**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目 | 件数 |
|---|---|---|
| KB宗教法一般・比較宗教法・管轄 | （マラヤの宗教行政） | 11 |
| | （西洋法とイスラム法） | 4 |
| | 小計 | 15 |

**表7　語学・文学の小項目**

| 中項目（記号はLCC） | 小項目 | 件数 |
|---|---|---|
| P文献学・言語学 | （マスメディア） | 10 |
| PL東アジア・アフリカ・オセアニアの言語と文学 | （宗教書） | 11 |
| PN文学 | （映画・芝居） | 8 |
| | 小計 | 29 |

12）20世紀初頭に始まったイスラム改革主義運動について、その担い手を一般にカウム・ムダ、これに反対して伝統的イスラム諸学の堅持を主張したグループをカウム・トゥアと呼ぶ。直訳すると、カウム・ムダは若いグループ、カウム・トゥアは古いグループとなり、改革派と守旧派などとも訳される［Roff 1967］。

**表8　（その他）の小項目**

| （その他）の小項目 | 件数 |
|---|---|
| （不正） | 7 |
| （友愛・人間関係） | 6 |
| （その他） | 8 |
| 小計 | 21 |

### 2.6. 科学／医学／技術

大項目「科学」「医学」「技術」はいずれも下位項目への分類を行っていない。「科学」には、雨が降ると蛙が出てくるのはなぜか、太陽と月の食が起こる原理は何か、など、自然科学分野の知識を探求する質問が多く、一部にそうした自然科学の知見を宗教の観点からどのように説明できるのかといった質問もあった。「医学」に含めたものは、献血や移植手術など、最新の医療がイスラムの観点から認められるのかといった質問が多く、一部に出産時にアウラを男性医師に見せることの是非を尋ねるものもあった。これは、女性に関わる分類に含めるべきか判断に迷った事例である。「技術」には、新しい道具や技術を用いて清めや屠殺などを行うことの是非を問う質問などを含めた。

### 2.7. その他

その他には、「不正」「友愛・人間関係」「その他」を設けた。宗教について、もしくは宗教の観点から問うというより、社会生活における一般的な心構えを問うものが多く、「不正」には例えばもぐりのタクシーに乗るべきか、テストで回答用紙をごまかしたら、交通事故を起こしたら、保留地の転売に賄賂を用いたら、といった質問を分類した。また、「友愛・人間関係」には、友情を長続きさせるには、尊敬を得るには、といった質問を分類した。

小項目の「その他」には、少数であるが「千一問」の性質を知る上で重要な質問が含まれる。一つは、「千一問」の回答者アブー・アル＝モフタールが筆名か本名かを問い、筆名であるなら本名と民族を教えて欲しいというものである[13]。回答者の民族が尋ねられることは、すなわち「千一問」で示される法学見解が特定の民族的な背景にもとづいているのかどうかに関心がもたれていたことを意味する[14]。他に、ムスリム同胞団バッジを無くした場合に代わりを送ってもらえるか、など、『カラム』編集者のエドルスが立ち上げたムスリム同胞団メンバーからの問い合わせが掲載されており、おそらくは同様の疑問を抱えた場合に備えて編集者が質問と回答を公開したものと考えられる[15]。ここからは、読者や、とくにムスリム同胞団メンバーに向けた掲示板のような機能も見てとれる。

## 3. 知の分類と東南アジアのムスリム社会

近代的な図書館情報学を用いた分類を経て、「千一問」に見られる1950～60年代のムスリム社会の知的関心の広がりは一定程度把握できたように思われる。近代的な知の枠組みがある程度の指標となりえたのは、この時代を生きた東南アジアのムスリム社会が、商品経済との関わりや女性の地位改善論、さらにはマスメディアの広がりなど、近代特有の現象を体験し、そのなかで直面した課題に取り組もうとしていたことの表れである。

反対に、今回の分類では、近代特有の現象がトピックとなっている場合にはそれを優先して分類を行ったため、地域社会の成り立ちに深く関わるトピックがまとまって示されず、項目を横断して点在することになった。華人およびキリスト教徒を典型とした異教徒との関係、華人の女児の養子慣行、諸領域での男女の接触、文化的混淆から生まれた娯楽や芸能、等々がこれにあたる。これらは、地域特有の文化や慣習に根ざす関心事であり、今回用いた分類表のなかでは相応の重要性を付与した上で位置づけることが困難に思われた[16]。このため、一つの項目にはあえてまとめ

13）質問と回答は次のようなものである。「Q. アブー・アル＝モフタールは本名ですか、それともペンネームでしょうか。もしペンネームであれば本当の名前と、どの民族の人なのか教えて下さい。A. ここで質問者が尋ねているアブー・アル＝モフタールとは、このコラムのなかで質疑応答を担当している委員会のアブー・アル＝モフタール委員長のことだと我々は推測する。我々のこの推測が正しいとすれば、アブー・アル＝モフタールはペンネームであり、彼は質疑応答を務めるにあたり匿名を好む人物である。この「千一問」には様々な質問が送られてくるが、そうした問題について回答する委員会のリーダーを勤めている。彼の掲げるスローガンは「誰が述べたのかを見るのではなく、何を述べているのかに耳を傾けなさい」である。すなわち、もしアブー・アル＝モフタールと彼の委員会の言葉が正しく、また真正なる典拠を元に根拠を述べているとすれば、それを採用すればよく、彼の考えや意見に従うことを彼が人々に強制することはない。彼らは正当な原典や典拠を探しながら、ただ自分たちが説明できることを説明しているだけである。」［*Qalam* 1953.5: 40］。

14）東南アジアのムスリムは、ほとんどがシャーフィイー派法学に従っているが、南アジアに出自をもつインド系ムスリムは一般にハナフィー派法学に従っており、民族的背景の違いによるイスラム法解釈の相違が意識されていた。

15）エドルスの立ち上げたムスリム同胞団に関する論考として［山本 2003；山本2011］がある。

16）「イスラム教」の小項目「他の宗教との関係」、「結婚・女性・家族」の小項目「子どもの権利」、「共同体・階級・民族関係」の小項目の「民族または社会集団としての民族・民族関係」など、適当な項目がないわけではないが、地域性は表現しにくい。

ず、各分類に一定数固まって表れてくることを補記によって強調するにとどめている。

また、民間信仰や習俗の切り分けに関しては、「イスラム教」に含められる可能性のある儀礼をあえて大項目「地理・人類学・レクリエーション」の「民間信仰・迷信」に含め、アラブ由来の慣習とインド由来の慣習、そしてマレー人社会独自の慣習とが混在するままとした。アラブ由来の慣習はスンナと認められてイスラム法上許容される一方、インド由来の慣習やマレー人社会の慣習は逸脱とみなされることがある。しかし、質問の質・量からは、マレー人社会の日常生活においてイスラム法学の見地にもとづく差別化が浸透していないことが推し測られたため、これらを並列させて扱った。今回は質問のみを対象とした分類であるが、回答も含めた分類や回答のみの分類を行えば、当然、結果が異なってくるだろう。

## 4. おわりに

図書館分類表を用いた分類作業は暫定的な段階に留まっている。項目をまたぐ事例や曖昧な事例について分類を再検討する必要があるだろう。また、図書館分類表は西洋近代をルーツとする近代的な知の枠組みである。すべての質問の背景にイスラム実践への関心が含まれることに鑑みれば、ファトワ集成やその他の形のイスラムにもとづく伝統的な知の分類方法によって分類を行うことにも意義があるだろう。冒頭で述べた問答パターンの分析も含め、「千一問」の特徴を明らかにするための分析・分類方法を引き続き検討したい。

## 参考文献


### ⑴ 新聞・雑誌

*Qalam*. Singapore/Selangor.

The Library of Congress, *Library of Congress Classification Outline*, (http://www.loc.gov/catdir/cpso/lcco/, 2019年1月14日閲覧).

### ⑵ 論文

Roff, William R. 1967, *The Origins of Malay Nationalism*, University of Malaya Press.

大川玲子 2007「イスラーム教徒の聖典観：現代の若者たちにとっての「クルアーン(コーラン)」」『明治学院大学国際学研究』、Vol. 31、pp. 33-54。

金子奈央 2014「読者の日常生活におけるハラル」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅵ――近代マレー・ムスリムの日常生活２』(CIAS Discussion Paper No.53)京都大学地域研究統合情報センター、pp. 32-36。

金子奈央 2016「1950年代初頭におけるマレー・ムスリムの社会認識・関心」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅶ――コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』(CIAS Discussion Paper No.62)京都大学地域研究統合情報センター、pp. 27-36。

小杉泰 2002「イスラーム人生相談所：暮らしの中の法学」大塚和夫編『現代アラブ・ムスリム世界――地中海とサハラのはざまで』世界思想社、pp.13-45。

坪井祐司 2016「コラム『千一問』について」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅶ――コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』(CIAS Discussion Paper No.62)京都大学地域研究統合情報センター、pp.9-14。

光成歩 2016「千一問に見る都市、多民族社会、家族形成」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅶ――コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』(CIAS Discussion Paper No. 62) 京都大学地域研究統合情報センター、pp. 15-26。

峯崎寛子 2009「生活の中のイスラーム言説とジェンダー：エジプト「イスラーム電話」にみるファトワーの社会的機能」『アジア・アフリカ言語文化研究』Vol. 78、pp. 5-41。

山本博之 2003「東南アジアにおけるムスリム同胞団の成立とその初期の活動について」『ODYSSEUS』(東京大学大学院総合文化研究科)、第７号、pp.59-73。

山本博之 2011「連載記事『ムスリム同胞よ、今こそ団結せよ！』」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅱ――マレー・イスラム世界における公共領域の再編』(CIAS Discussion Paper No.19) 京都大学地域研究統合情報センター、pp.25-31。

山本博之 2016「車輪を担う」坪井祐司・山本博之編著『『カラム』の時代Ⅶ――コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』(CIAS Discussion Paper No.62)京都大学地域研究統合情報センター、pp.37-39。